

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:62.

指示録の標準化から教育的課題を考える—インシデント内容の分析を通して—

西岡理恵、岩井久美子、山口緋沙子、青木香澄、大森真
希、阿部由希子、小北直宏、郷 一知

指示録の標準化から教育的課題を考える

－インシデント内容の分析を通して－

西岡 理恵¹⁾、岩井久美子¹⁾、山口緋沙子¹⁾、青木 香澄¹⁾
大森 真希¹⁾、阿部由希子¹⁾、小北 直宏²⁾、郷 一知³⁾
集中治療部ナースステーション¹⁾、集中治療部²⁾、救急部³⁾

A病院ICUでは、従来より全ての診療科において手書き指示録を使用していた。しかし、看護師から指示録が手書きで見づらく、煩雑であるという意見があった。また、診療科によって薬剤の組成が異なり指示の混乱を招いていた。その改善に向け、昨年「ICUにおける心血管作動薬 使用約束濃度表」を作成し、薬剤組成の統一化を図った。同時に薬剤使用頻度の多い心臓血管術後症例の標準化指示録を作成した。その結果、インシデントが減少するメリットが得られた。

今年度、ICU 経験0～1年の看護師が43%となり、ICU 経験平均年数も2.3年となった。それに伴い、知識不足や確認不足、慣れない指示受けによるインシデントも報告され、指示を抜けることなく受けることと確認できる状況を整えていくことが急務であった。そのため教

育的視点から指示録の標準化が必要であると考えた。

そこで、各診療科医師の協力の下に、入室件数の多い血管外科（腹部大動脈瘤・閉塞性動脈硬化症）・脳神経外科・消化器外科（消化管・肝臓・膵胆管）・循環器内科（急性心筋梗塞）の7つの疾患別指示録を作成し、今年6月から使用を開始した。疾患別指示録の使用により使用頻度の高い薬剤や薬剤投与ルート、挿入頻度の高いドレーン類、必ず行う処置など各診療科の特徴を明確にした。現在、疾患別指示録は試行途中であるが、試行後のインシデント内容を分析し、分析結果から教育的課題について考察する。